

## 県内の死亡事故の特徴

### 1 死者の約4割が高齢者

前年同期50人中27人（54.0%）だった高齢死者が、47人中21人（44.7%）と減少している。

高齢死者21人のうち、歩行中が12人、自転車乗用中が2人、車両運転中が5人、車両同乗中が2人で、高齢死者の事故21件中14件（66.7%）が昼間の発生である。

### 2 四輪乗車中の死者はシートベルト非着用が多い

前年同期50人中24人（48.0%）だった四輪乗車中の死者は、47人中21人（44.7%）と減少している。

四輪乗車中の死者21人（運転中15人、同乗中6人）のうち15人はシートベルト非着用・不明で、うち3人（20.0%）が車外放出であった。

シートベルト非着用・不明15人中10人は、着用していれば死に至らなかったと思われる。

### 3 歩行中・自転車乗用中の死者は横断中が多い

前年同期50人中22人（44.0%）だった歩行中・自転車乗用中の死者が、47人中22人（46.8%）と同数である。

死者22人中17人は横断中で、うち14人は車から見て右から左への横断であった。

### 4 昼間の発生が多い

前年同期50件中22件（44.0%）だった昼間発生の死亡事故が、46件中26件（56.5%）と増加しているものの、9月以降は16件中12件が夜間と、一転して夜間の発生が多い。

### 5 高齢ドライバー同士による事故が増加

高齢ドライバーが関係する事故は、前年同期50件中15件（30.0%）に比べ、46件中13件（28.3%）と減少しているものの、うち高齢ドライバー同士の事故は、1件から3件に増加している。

### 6 原因別では前方不注意が多い

前方不注意が46件中18件（39.1%）と最も多く、次いで信号無視が6件、一時不停止が5件の順となっている。

前年同期に比べて増加した原因		
信号無視	3件（6.0%）	⇒ 6件（13.0%）
一時不停止	4件（8.0%）	⇒ 5件（10.9%）
歩行者妨害	1件（2.0%）	⇒ 3件（6.5%）